

モノレール

VOL. 5 2002.2発行



武蔵村山市 都市建設部
多摩モノレール推進担当
042-565-1111(代表)

新青梅街道先行拡幅の要望活動

昨年の11月27日(火)に東京都の都市計画局長に対し、武蔵村山市長、東大和市長、瑞穂町長がモノレール導入空間の確保を図るため、新青梅街道を先行して拡幅する都市計画決定の要望を行いました。

これに対する回答は、「モノレールと新青梅街道拡幅の都市計画決定はセットであると考えている。したがって、モノレール事業の採算性の確保を確認した上で拡幅手続きに入りたい。延伸の夢をつないでいくようににがんばりましょう。」というものでした。

しかし、市民の悲願であるモノレールの早期導入を実現するために、まずは新青梅街道の先行拡幅が不可欠ですので、さらなる要望を東京都等に対して行っています。

東京都の財政状況や多摩都市モノレール(株)の経営事情等により、モノレールの早期事業化が難しい状況にはありますが、市民の皆さん、一緒にモノレールの市内延伸を盛り上げていきましょう。

なぜ、導入空間確保(新青梅街道先行拡幅)の要望なのか？

モノレール導入のための道路拡幅とモノレールそのものの事業化は本来、同時に都市計画手続きを進めるものですが、都の財政状況やモノレール(株)の経営状況が厳しいため、同時に都市計画決定をして、延伸事業を進めることが難しい状況にあります。しかし、このまま手をこまねいては、導入空間である新青梅街道沿道の開発が進み、将来の道路拡幅時に建物の移転補償など大きな支障が出るのが予想されます。このため、モノレール本体の事業を今すぐ実施することが困難でも、導入空間である新青梅街道の拡幅を都市計画決定すれば開発を抑制、指導でき、将来の導入が円滑に進むものと思われれます。

計画調整会議の検討状況

平成12年10月に発足して以来、東京都、多摩都市モノレール(株)、関係市町によって、導入空間確保方策、コスト縮減方策等の検討を行ってきました。それぞれの項目について、どのようなことを検討しているのか、その主なものを紹介します。

1 導入空間確保方策について

モノレールの整備と導入空間である新青梅街道の拡幅は、本来同時に都市計画手続きされるべきものですが、東京都の財政状況や多摩都市モノレール(株)の経営状況が厳しいため、事業推進のGOサインが出せない状況です。このような現状を打破し、事業を推進するための手法として新青梅街道の先行拡幅が提案されました。

新青梅街道は、都心と西多摩地域を結ぶ幹線道路であるとともに、圏央道青梅ICや国道16号線と立川方面を連絡する重要な路線でもあり、交通機能の一層の充実・強化が必要です。

また、この路線は、1日あたり5万台以上の交通量があり、朝夕は、恒常的に渋滞が起きています。さらに、歩道が狭いため、車椅子や自転車の通行もままならず、交通弱者対策の点からも拡幅再整備が必要です。

2 コスト縮減方策

現在検討しているコスト縮減方策には次のようなものがあります。

運行計画の適正化

- ・単線運転化
- ・支柱の構造変更
- ・電線路設備の規模縮小

車両基地の集約

- ・現行車両基地での対応

駅舎構造の適正化

- ・コンコース階の省略による駅一層化
- ・駅施設の規模の合理化

電気関連施設の適正化

- ・受変電施設の分散化

地下区間の調整

- ・地下区間の暫定高架化

なお、詳細につきましては、現在取りまとめ中ですので、発表され次第「ものれーる」臨時号でお知らせします。

ディズニーリゾートライン

第4号で紹介した全国で走行しているモノレールから、今回は、半年前に開業した日本で最も新しいモノレール、ディズニーリゾートラインを紹介します。

東京ディズニーリゾート内の各施設を訪れる人々に、地域内の円滑な移動手段を提供し、ディズニーリゾート内を快適な環境で過ごしてもらうことと舞浜駅周辺の交通渋滞の緩和、排気ガスの抑制などの環境対策や周辺地域への配慮を目的に、ディズニーリゾートラインが建設されました。

ディズニーリゾートラインは、平成13年7月に開業し、JR舞浜駅前に位置するリゾートゲートウェイ・ステーションを起終点とし、ディズニーランドやディズニーシーといった各施設を結ぶ5kmの単線・環状モノレールで、所要時間は一周約13分となっています。

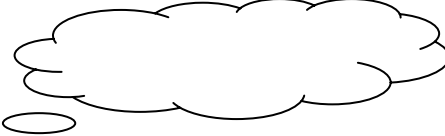
このモノレールは、駅舎がリゾートの雰囲気をかもし出すデザインであったり、車体の窓や車内のつり革がミッキーマウスの形であったりするなど、大人も子供も喜べるような工夫がされており、夢のある乗り物になっています。

事業主体	(株)舞浜リゾートライン
延長	5 km
駅数	4 駅
運行	単線形式 3分～13分間隔

Q&A

Q モノレールが延伸されるとどんな効果があるの？

A モノレールは、バスと比較して定時性、速達性に優れています。市役所付近から立川駅までの移動を例にとると、約13分の時間短縮効果があります。また、モノレールを通すためには、新青梅街道の拡幅が必要です。この拡幅により、車道や右折レーンが現在より広がるため、走行しやすくなるのと同時に、自動車で出かけていた人の多くが、スピーディーで、無公害で、見晴らしのよいモノレールの利用に転換すると思われるため、新青梅街道の交通渋滞はかなり緩和されます。さらに、交通渋滞が緩和されると窒素酸化物等が減少し、沿道環境も今よりもグッと良くなり、多くの人々がにぎわう、住みよい生活空間に生まれ変わります。



モノレールのぼり旗

市内の公共施設に置いてあります。
また、東京都の関係局にも置かしてもらい、アピールしています。

「ものれーる」に対するご意見・ご感想を是非お寄せください。

Eメールでの投稿 m-murayama@m-net.ne.jp

Eメールでの投稿は、多摩モノレール推進担当宛てにお送りください。